

川崎地域連合

J R南武線 混雑緩和と安全対策を求める署名活動報告（その1）

武蔵小杉駅と武蔵中原駅で署名を求める活動を実施!

武蔵小杉駅、武蔵中原駅で同時実施!!124 件の署名集める

5月10日（木）18時から武蔵小杉駅と武蔵中原駅において、「J R南武線 混雑緩和と安全対策を求める署名活動」駅頭行動を実施しました。

武蔵小杉駅は中原地区・幸地区が、武蔵中原駅は田島地区・中央地区が担当し、連合役員35名と議員らは、J R南武線の混雑緩和と安全対策についての必要性などを訴え、署名活動を行いました。

また、この日の行動に、藤吉議長をはじめ、三村元衆議院議員、川崎市議会からは織田議員（宮前区）、堀添議員（高津区）、岩隈議員（高津区）、松井議員（中原区）が応援弁士として参加しました。

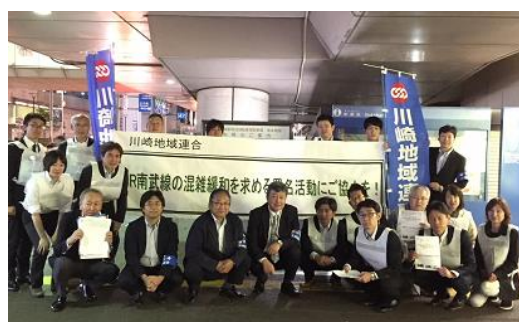
次回は、武蔵新城駅と武蔵溝ノ口駅において5月17日18時より実施いたします。

この署名活動は、神奈川新聞川崎版（2018年05月12日）に掲載されました。

武蔵小杉駅



武蔵中原駅



混雑なにかして

JR南武線

名活動を始めた。これまで市に政策要求してきたが、早急な対策を求め、今回初めてJR東日本に対して請願を行う。

(桐生 勇)

10日午後6時、南武線の武蔵小杉駅ホームは帰宅する人たちであふれ返っていた。電車は頻りに来るが、車内はすし詰め、乗るのをためらう人々が次発を待つ。「無理なご乗車はおやめください!」。駅員が乗客を押し込む姿も日常的だ。同日夕の署名活動は混雑の激しい武蔵小杉、武蔵中原駅で実施。通勤、通学客に呼び掛けた。

「あはら骨が折れるのではないかと思えますよ」。市北部から武蔵小杉のオフィスに通う40代の女性会社員は署名に応じながら混雑ぶりを苦々しく語る。同僚の女性は、運賃が増し、時間もかかるにもかかわらず、南武線の混雑を避けて東急田園都市線と東横線を利用して武蔵小杉に通勤すると明かす。

川崎地域連合 対策求め署名活動



JR南武線の混雑緩和に向けた川崎地域連合の署名活動
=10日夕、JR武蔵小杉駅北口

マンション開発が相次ぎ、武蔵小杉などでは住民が増え続けており、南武線の最混雑区間は午前7時半〜8時半の武蔵中原〜武蔵小杉間がピーク。混雑率は幅の広い車両の導入などで

線のピーク時の運行本数は1時間に25本と都心部の地下鉄並みだが、混雑率が高いのは、都市部のJRでは珍しい6両編成が一因になっている。

市は抜本的な輸送力強化のため、JR東日本に車両の長編成化を働き掛けており、国土省の交通政策審議会小委員会も16年の答申で、同線の輸送力増強に初めて言及した。

ただ、長編成化にはホームの延長が必要な上、ホーム前後に踏切がある駅が多く、一筋縄ではいかない事情がある。沿線の稲城、立川など都内4市との調整も求められる。

こうした中、川崎市は昨年、南武線利用の職員の時差通勤を試行。今年も実施する予定で、市内企業などにも呼び掛け、混雑緩和に努める考えだ。

同地域連合の署名活動は武蔵新城、武蔵溝ノ口駅でも行う。組合員にも地域で自主的に取り組んでもらい、6月中旬には集約して関係団体に提出する。